

前号でお知らせしましたように「みずくらいど」は今月から家庭数での配布です。

皿沼小学校校長室通信 第27号

令和3年12月6日

みずくらいど

校長 加藤雅弘

5年生もすごかった！ メタ認知して成長！！

11月下旬から12月1日にかけて、6年生、5年生の宿泊行事が続きました。6年生の日光については、学校要覧に載せている教育理念の全ての項目を達成していることを29日のズーム朝会で児童に伝えました。このみずくらいどでは、この素晴らしい6年からまもなくバトンを受け継ぐ5年生の言動についてお伝えします。

鋸南自然教室は、爆弾低気圧の影響で2日目のスケジュールを変更しました。初日の夜、それに合わせた行動予定の変更を生活班の班長を通して伝えることになりました。出発時刻が遅くなるのに合わせ布団やシーツの作業を後ろ送りにしたため、しおりに記してある行動予定が大きく変わることになりました。班長は班長会で聞いた大幅な変更をもらさず伝えなければなりません。私はその様子を知りたく1班の部屋を訪れました。班長が班員全員にしおりを持たせ、きちんとメモを取るように指示した班長は初め変更を伝えきれていませんでした。しかし、自らその過ちに気付き、しっかり訂正して最終的に正しい情報をみんなに届けました。下手にごまかしたりせず、自らすべきことを的確に判断し行動していると感じました。次の朝起床直後、再びその班の様子を見にいくと、今度は副班長が「今から〇分しかない中で、これだけのことをやらないといけないから…」と訂正したしおりを見ながら、他のメンバーに呼びかけているのです。それぞれが責任を果たし、協力しながら行動している姿に感心しました。

また、朝食後には、布団とシーツ、そして荷物を片付けた後の部屋には、膨大な空間が戻ってきます。当然そこで激しく体を動かしたくなる衝動が生まれます。友達がそうなった瞬間、4班の副班長は「下に迷惑だよ」としひれる一言で一気に沈静化します。「下」とは同日3階に泊っていた他校のことです。部屋のメンバーへの迷惑でなく、他校のことに配慮した言葉がけに驚きました。

出発式で、自分のことだけでなく、周囲の人の様子を見て、みんなが幸せになる行動をとることが、鋸南自然教室のねらい達成につながるという話をしていました。上記のどちらの言動も、自分を客観視したり高い位置から俯瞰(ふかん)したりするメタ認知ができたから実現したと捉えています。加えて前号で述べた「誰かの役に立つ、集団に貢献するうれしさ」も味わったことでしょう。この他にも二日目の標本作りでは、講師の先生から「こんなに集中して話を聴く学校はめったにない」、退園式では、施設の管理人さんから「素晴らしいチームワーク」というお褒めの言葉をいただきました。どなたから見ても、評価に値する姿だったと言えるのではないでしょうか。そして、その姿は学校に到着した後の帰校式でも見られました。私の話の際、ほぼ全員の目がこちらに向いているのです。学校に戻ってくると、緊張感もほぐれ疲れとともに集中力は落ちるのが普通です。しかし、最後の最後まで視線は力強いままでした。

これまで6年生の素晴らしい姿を機会があるたび朝会やこの通信で伝えてきましたが、5年生も立派に後を継ぐことができそうです。高学年に、自分で考え行動する「主体的に取り組む態度」が育っていること、嬉しい限りです。さらに広く浸透してほしいと願っています。